



ミリタリー・カルチャーの 可能性

戦争社会学研究 第6巻

〈特集1 ミリタリー・カルチャー研究の可能性を考える〉では戦争観や平和観、あるいは、戦争や軍事に結びついた「趣味」的な文化が現在の日本でどのように絡み合いながら形成されているのかを考究する。

〈特集2 戦争体験継承の媒介者たち——ポスト体験時代の継承を考える〉では、体験を直接伝える人びとがますます減少しつつあるなか、戦争体験の体験者と非体験者の間をつなぐ役割を持つ〈媒介者〉に注目し、体験なき継承のかたちを未来に拓く。

戦争社会学研究会 編
A5判並製・カバー装・320頁
定価：本体 3200円 + 税
ISBN：978-4-909710-24-6 C3030

【戦争社会学研究会】

戦争と人間の社会学的研究を進めるべく、社会学、歴史学、人類学等、関連諸学の有志によって設立された全国規模の研究会。故・孝本貢（明治大学教授）、青木秀男（社会理論・動態研究所所長）の呼びかけにより2009年5月に発足し、以後、年次大会をはじめ定期的に研究交流活動を行っている。

こんにちは、〈戦争〉と〈文化〉はどのように結びつくのか。

戦争体験者を生み出し続ける世界で、われわれの〈未経験性〉は意義を持ちうるのか。

【第3巻】 宗教からみる戦争

宗教と戦争は、人の生死に関わる。多くの宗教は、殺生に対する戒律を有し、同時に戦う主体でもあった。近代戦で宗教が担ってきた役割とは。信仰と暴力の関係に迫る。

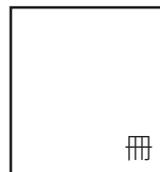
A5判並製・280頁・定価：本体 3000円 + 税 ISBN978-4-909710-09-3 C3030



【第4巻】 軍事研究と大学とわたしたち

近年、再び学術と軍事が接近しつつある。多様化・複雑化する学術と軍事の結びつきに対して、大学・研究者はいかに学問の自由を守り、自立・自律するか。「学術の軍事化」への警鐘を鳴らす。

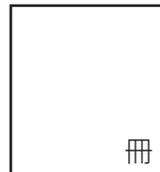
A5判並製・240頁・定価：本体 2800円 + 税 ISBN978-4-909710-12-3 C3030



【第5巻】 計量歴史社会学からみる戦争

不平等・格差が拡大しつつあるいま、戦争や暴力による社会の流動化を正当化する言説に対して、計量分析というデータの力は、どのような可能性を提示できるのか。

A5判並製・232頁・定価：本体 2800円 + 税 ISBN978-4-909710-17-8 C3030



取扱取次：八木書店（トーハン・日販・楽天ブックス他帳合からのご注文が可能。ご返品承ります）

貴店印	部数	<h2 style="margin: 0;">ミリタリー・カルチャーの可能性</h2> <p style="margin: 0;">戦争社会学研究会 編 A5判並製・カバー装・320頁 ISBN 978-4-909710-24-6 定価：本体 3200円 + 税</p>
ご担当	様	

FAX：03-4586-7141

みずき書林 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-7-3-303
rintarookada0313@gmail.com TEL：090-5317-9209（岡田）